

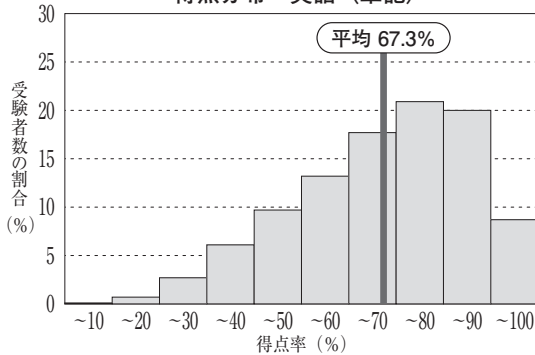
英語 (筆記)

できる限りの準備をして本番に臨もう

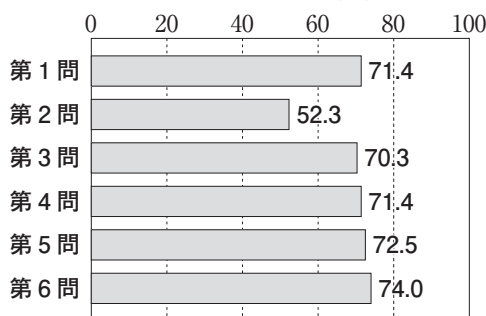
I. 全体講評

今回は受験学年の平均点が134.7点と、これまでに比べ、大幅な上昇を見せた。センター試験本番を間近に控え、好結果を示したことは喜ばしい。今回の結果を分析してみると、これまでも見られたように、第2問の細かな知識を問う箇所には依然として課題が認められたが、全体的に基礎から標準レベルと目される設問では取りこぼしが少なく、かなり安定した力を示している。特に第6問の長文問題の得点率が70%台に達するとともに、無回答率を大きく下げた点は高く評価できる。このまま最後まで気を抜かず、センター試験本番には自信を持って臨んでほしい。過去のセンター試験本番レベル模試を続けて受けている人たちは、すでに自分の課題をはっきり認識していると思われるが、残されたわずかな期間にも弱点補強に努め、効率的なセンター対策に取り組んで欲しい。

得点分布 英語 (筆記)



大問別得点率 (%)



II. 大問別分析

第1問 発音・アクセント

基本ルールと頻出語の再チェックを！

今回の第1問の得点率は71.4%で、かなりの好成绩であった。内訳を見ると、Aの発音問題の平均が61.6%だったのに対し、Bのアクセント問題が78.8%と、特にBでの健闘ぶりが目立った。小問別の正答率を見ても、全問50%台以上で安定していた。1つだけ見直しておきたいのは、Aの第2問で、母音字 oo の発音問題である。1つだけ長母音になる① balloon が正解だが、③ shook を選んだ人も多かった。ここは発音問題では頻出ポイントを問うているので、間違えた人はよく覚えておいて欲しい。発音・アクセント分野に不安のある人は、短時間でも基本ルールと頻出単語のチェックを怠らないようにしよう。

第2問 文法・語法・整序作文・応答文完成

少しでも多くの知識を蓄えよう！

第2問の得点率は52.3%で、今回の大問の中では最も低かった。内訳は、Aの文法・語法・語彙問題が46.6%、Bの整序問題が52.7%、Cの応答文完成問題が59.4%だった。今回に関しては、ABがやや不振だったことがわかる。小問ごとの正答率を見ても、Aは10%台から60%台に及び、Bには30%台が1問含まれるなど、ややばらつきが見られた。Aで10%台に終わったのは、問2の否定表現を問うものであった。文脈から全否定の③ neither を選ぶべきであったが、大半の人が反対の② both を選んでいた。特に難しい内容ではないので、やや意外な結果であった。Bで不振だったのは問3で、関係代名詞 what がキーポイントをなしていた。ABともに文法の知識の重要性を再認識すべきである。この分野に不安がある人は、過去問を見直し、どのようなテーマが狙われやすいのかを把握しておこう。

第3問 文脈把握 (対話文空所補充・文削除・要約)**文の流れをしっかりと把握しよう。**

今回の第3問の得点率は70.3%とよくできていた。内訳を見ると、Aの不要文削除が75.2%、意見の要旨を選ぶBは66.3%と、どちらのセクションも安定していた。ただし、小問別に正答率を見ると、1つだけBに40%に満たない箇所があった。Aは短い英文だが、かなり本格的な読解力が試され、精読が求められる箇所である。しかし、戦略的に言えば、ここでも多くの時間を費やすことは避けなければならない。表現そのものに誤りを見つける必要はないので、文の流れを的確につかむことに集中しよう。Bも文字数が多いが、要旨を把握するのが目的なので、それぞれの発言を一気に読み通すくらいであってほしい。こうすることで、時間を節約することができれば、後半のより本格的な文章問題にも対処しやすくなるだろう。

第4問 説明文と図表・説明文書などの読み取り**情報を的確に整理しよう。**

第4問の得点率は71.4%で、こども良好な成績だった。ABの内訳では、前者が79.3%、後者が63.5%とやや差が見られた。小問別正答率を見ると、Aはすべて70%台から約90%で安定していたが、Bには30%台未満の箇所が1つあって、これが足を引っ張った。不振だった1問はBの問3で、表の中の情報に基づく内容一致問題である。与えられた4つのカヌーのルートのうち、2つが上流からベース地点、2つがベース地点から下流に向かっているの、正解は②ということになる。この位置関係に関する説明が読みにくかったのかもしれないが、正解よりも①④を選んだ人の方が多かった。本文の該当箇所の記述にはもっと注意を払ってほしい。

第5問 物語文の読解**この調子を持続し、本番に挑もう！**

今回の第5問の得点率は72.5%で、非常に良くできていた。小問別の正答率も、50%台半ばから80%台後半に及び、高いレベルで安定していた。この大問では、センター試験のすべての大問の中で最も語数の多い本文に対処しなければならない。しかし、長文とは言え、特に風変わりな内容でなければ、ストーリーの大筋を把握するのにさほどの苦労

はないのではないだろうか。これまでも指摘したように、一般にはこのあたりから無回答率が高くなってくるが、今回はかなり減少した。この点も非常に高く評価できる。センター試験本番でも、終盤に至るまでの過程でいかに効率よく解答するかを念頭に置いてほしい。

第6問 説明的文章の読解**最後の難関を見事にクリアした！**

第6問の得点率は74.0%で、今回の大問の中で最高の成績だった。この時期に来て、最後の長文問題でこれだけの成績を残したことは高く評価してよいだろう。小問別の正答率を見ても、Aでは50%ほどから80%台半ばに及び、パラグラフ毎に見出しを選ぶBでも70%台に達する高率を示した。第2問のような細かな問題で手こずらされた割には非常に安定していたと言える。これまで大きな課題であった無回答率も大幅に下げることができた。今回の好成績も全体的な時間配分が適切に行えるようになった結果であろう。時間的な余裕さえあれば、決して難しい問題ではない。センター試験本番にも、ぜひこの調子で臨んでほしい。

Ⅲ. 学習アドバイス

最後の学習アドバイスとして、第6問に一言触れておこう。本番直前の時期であるから、長期的な学習対策ではなく、実戦的な心得を述べておきたい。この読解問題の素材は数年前に物語文から説明文に変わった。説明文は客観的情報をもとに筋道がはっきりしている点では読みやすい。そこで、まず何よりもパラグラフ単位の内容理解と解答を心がけてほしい。時間は限られているのだから、パラグラフ毎に設問と照らし合わせ、ABのどちらでも解答可能な設問はそこで処理した方がよい。多少あやふやであっても、無回答を避けるために取りあえずの結論を出しておくべきである。また、説明文に特有な難しい単語や硬い表現もあるだろうが、もし意味を知らない語句に出くわしても、およその意味を推測できればそれで十分である。大切なのは文脈全体なので、必要以上に細部にこだわることはない。時間さえ確保できれば、それほど難問ではないことを忘れないでほしい。受験生諸君の健闘を祈る。